

奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民投句
令和二年八月度 入選句（投稿総数千九百六十四句・一般投句数五百四十七句）

特選

十七時つと紅をひく七変化

選者 名和 永山

安八郡輪之内町 大橋 トオル

詠者はどこかへお勤めされているのだろうか。十七時は、退社時間である。「つと紅をひく」と、今までの社員から、女性に変わる一瞬がうまく表現されている。派手な化粧ではなく、ちよつと紅をさすだけのそのしぐさに、私は心を奪われる。

さて、その後はお買い物か、友達との待ち合わせか気になるところであるが。

さてと、選評に記した後に作者を見ると、これは失敬！男性でいたか。そうですか。退社時間になって、紅を引く女性を見て、あなたの心も奪われたのですね。

いならずまに音待つほどに眠られず

愛知県額田郡 平松 京師

「いならずま」は、「稲妻」で秋の季語。同じような季語の「雷」は夏の季語。あえて「いならずま」にしたことにこの俳句の良さがある。ピカツと光った「いなびかり」を表すためである。夜空に走る光の屈折。そして、しばらくしてから「ゴロゴロ」と音がやってくる。それまでの間に、どれくらい離れているのだろうか。つい、音が鳴るまでの秒数を数えてしまうほど、その時間が気になるのは、詠者だけではない。私も「光ってから、音が鳴るまで」秒読みを始める。五秒か。
三四〇m／秒×五＝一七〇〇mかと、いならずまとの距離を測る。「待つほどに」の措辞が何とも言えないのである。

二死満塁黙禱捧ぐ終戦日

兵庫県神戸市 岸下 庄二

この句からは、八月十五日の終戦記念日に高校野球の甲子園の一場面を思い出す。二死満塁の大チャンスに、正午の黙禱サイレンが鳴る。選手もベンチも、また観客席も全員が、今までの興奮を一時静めての黙禱である。両チームが一時試合を中断して黙禱するのだが、試合の結果より「戦争での多くの犠牲者へ、今ある自分たちの幸せも感謝し、霊を弔う」のである。大好きな野球が出来る今の世を築いて下さったたくさんさんの御霊に、選手たちは何を報告したのであるうか。

もちろんその後は、試合が続行されるのであるが…。今年はその場面が見られなかったが、来年こそ、また甲子園での球児の活躍を期待している。

秀逸

何気なき会話のつづく夕端居

大垣市 宮川 浩

風鈴の音色分けあふ路地長屋

養老郡養老町 田中 紫香

紅柄に染まる格子戸大西日

不破郡垂井町 児玉 信子

ひと言に手のひら返す半夏生

大垣市 高津 喜久子

節くれた指は勲章生身魂

大垣市 宮上 美濃留

立秋や愁ひの少女モジリアニ

大垣市 臼井 秀子

夏帯を叩き女将の顔になる

大垣市 早崎 美弥子

雨しとど打たれ錆びゆく四葩かな

不破郡垂井町 川瀬 慶泉

かなかなかなトースト一枚立ち上がる

大垣市 佐藤 すみ子

方の水円く膨らむ噴井かな

岐阜市 堀江 美州

入選

夏落葉風音拾ふ竹箒	神奈川県大和市	岩田 爾瑠
何度でもゆるしてくれる浮いてこい	東京都北区	菱沼 多美子
雨上がり西施めきたる合歡の花	福井県敦賀市	山田 美千代
風の来て涼しき音色ひびきけり	大垣市	東宮 恵美子
酔漿の花も葉も閉ず雨嫌ひ	不破郡垂井町	宮代 一草
梅雨湿り仁王の拳堅く閉じ	大垣市	高田 雅章
滴りも大河のもとのひと雫	大垣市	伊藤 英司
草取て墓碑の戒名蘇る	大垣市	久保田 悟義
月光を押し上げてゐる噴井かな	大垣市	娑 婆
少年の少し背伸びのサングラス	不破郡垂井町	北村 廣美

入選

天井の龍の拍力暑氣払ひ	大垣市	富田 洋子
退院は敬老の日を目途として	海津市	水谷 勲一
半熟の玉子の脆さ秋の雨	不破郡垂井町	中嶋 笑子
宗祇水ほとりの店の冷奴	不破郡垂井町	西田 厚堂
滴れり藍の濃淡山幾重	大垣市	岡田 あや子
白秋の風やはらかし北近江	大垣市	臼井 秀子
ラムネ飲む太平洋へ仁王立ち	大垣市	早崎 美弥子
徹宵の書類のチェック月見草	大垣市	永江 美佳
風死すやはやりやまひのひたひたと	大垣市	佐藤 すみ子
群青の空の欠片か濃紫陽花	千葉県富里市	遠藤 円

選者吟

光にも匂ひありけりすすき原	永山
---------------	----